

営農情報（10月号）

■果樹

▷ラ・フランス適期収穫

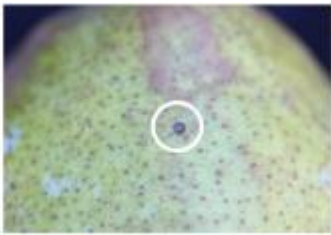
「ラ・フランス」は収穫が早いと香りが少なく食味が劣り、収穫が遅いと日持ちが悪く、果肉障害が発生しやすくなるので、適期に収穫することが重要です。

適期収穫・産地追熟を徹底して、おいしいラ・フランスを消費者へ届けましょう！

今年は「輪紋病」の発生が多い傾向にあります！

出荷の際は、輪紋病やシンクイムシ類などの被害果が混入しないよう十分注意して選別をしましょう！！

「輪紋病」初期病斑



初期病斑は1～2mm程度

黒点から急激に拡大する

予冷・追熟時に発病（硬い状態では分からない）

▷りんご「ふじ」着色管理

・葉摘み、玉回しは2～3回に分けて行います。1回目の葉摘みは9月末頃～10月上旬に、果実に密着している葉や日かげを作る葉を主体に摘みましょう。1回目から葉摘みを多くすると、着色遅延、糖度低下、来年の花芽の充実不良など悪影響があるため注意しましょう。2回目は10月中旬頃から、果実周辺の葉と徒長枝や発育枝の葉を摘み、あわせて玉回しを行いましょ。その後は、着色の進みを見ながら、葉摘み、玉回しの修正を行います。

・「りんご黒星病」の伝染源を少なくするため、葉摘みで落とした発病葉や摘果した発病果は回収し適切に処分しましょう。

・反射シートは収穫30日前頃（10月上旬）を目安に設置しましょう。

▷りんご収穫後防除

「りんご黒星病」の次年度の発生を低減させるため、収穫を終了した品種から速やかに薬剤防除を行いましょう。また、落葉した発病葉は翌年の伝染源となるため、収穫終了後から翌春の展葉期まで落葉を収集し適切に処分（土中に埋める）するなど、耕種的対策も実施しましょう。

防除時期	対象病害	薬剤名	倍数	使用回数
休眠期	腐らん病 (黒星病)	① アビオンーE (展着剤)	2,000 倍	—
		② ベフラン液剤 2 5	1,000 倍	休眠期 6 回以内

【黒星病対策】黒星病の発生が多い園地では越冬菌密度を低下させるため、耕種的防除としてDL消石灰（100kg程度/10a）を散布。

※防除について詳しくは、「令和6年JAてんどう病害虫防除暦」をご覧ください。

■米づくり～次年作への準備～

▷刈取り後は早めに秋耕を

- ・ 稲わらの腐熟促進

石灰窒素など資材を施用する場合は、気温が高いほど腐熟分解が進みやすくなるため収穫後なるべく早い時期に散布し浅く耕します。なお、腐熟促進資材は、微生物の活性が高まるように、連年施用しましょう。

石灰窒素を秋施用した場合は、次年産水稻が過剰生育になり、食味を低下させる場合があるので、基肥などの施用量を減らしましょう。

「稲わら分解」腐熟促進資材 ※いずれか1つ施用

肥料名	施肥量（現物）	施肥時期
ワラ分解キング	10kg/10a	刈取り後
石灰窒素	20kg/10a	刈取り後

※施肥について詳しくは「JAてんどう施肥設計書」をご覧ください。

STOP 農作業事故～秋季農作業事故防止運動強化期間～